文責：吉岡

|  |
| --- |
| 授業テーマ：井伏鱒二『山椒魚』 |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  ・読み取り能力が高い。（グループワークを行えば、指導案レベルの読み取りができる）  ・アクティブラーニング型の授業に慣れている。  クラスの雰囲気  ？  第1,2,3回授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  ・「山椒魚」という作品の概要をつかむ。  ・根拠をもって客観的に内容を理解する。  ・話し合い、（意見の表明だけでなく）議論をする。 | 第1,2,3回授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  ・山椒魚の通読  ・そのように根拠を説明できる  ・単発の意見が多く出る。とともに、発展的な議論が起こる。  評価方法（目標に対応するように）  ・音読（通読）  ・ワークシート（根拠の説明）  ・議論の展開（意見/議論） |

|  |
| --- |
| 準備物  ・ワークシート |

|  |
| --- |
| この授業を作るにあたってなんとなく考えたこと  ・時間が中途半端に区切れてる感じもしますが、前回の復習にもなるのでそれもありかなと。 |

授業の流れ

< 計44分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 7分 | 【導入】  ・ROJEの紹介  ・大学生の自己紹介  ・全8回の授業の概要  ・今回の授業の概要  ・班分け（4人、4人、3人、3人の4班） | ・生徒に、私たちが何者であるかを知ってもらうこと  ・この先の展開をイメージしやすくすること | ・冗長にならないように。  ・「文学は客観的に読めるものです」とアナウンス。  ・「班」と「グループ」の違いを説明。 |  |
| ② | 15分 | 【通読】  ・音読。  全員に立ってもらって、各自声に出して読む。  「15分ぐらいとるので、いちど音読してみてください」  「早めに終わった人は、もう一度最初から読んでみてください」 | ・概略を掴む。  ・声に出すことで、大胆で特徴的な表現を体感する。 | ・（音読すると良い文章だ、と思ったので入れました。）  ・立った方が雰囲気的に声を出しやすいかなと。また、終わった人から座らせると終わってない人まで座りそうなので。  ・声に出しにくいかもなので、一言加えたりすると良い。大学生も一緒に読んだり  ・先に、事前課題の内容をここで言っておく。 |  |
| ③ | 10分 | 【事前活動】  ・それぞれ考え、ワークシートに記入。 | ・ジグソー法が終わったあとに感じたことと比較してもらうための準備。 | ・ | ワークシート１ |
| ④ | 5分 | 【説明】  ・「エキスパート活動」と「ジグソー活動」、ちょっとした発表があることの説明。 |  | ・活動の動きがわかりづらいので、説明を丁寧に、図とか使って。  ・机を班にしてもらう。 |  |
| ⑤ | 5分 | 【エキスパート活動】  ・班ごとにA,B,Cを決め、移動。  ・ワークシートを進める形式で、グループワーク。 |  | ・机を班ごとからグループごとにする  ・A,B,Cはこちらで決定。  ・「次回も続きをやります」のアナウンス | ワークシート２ |
| ⑥ | 2分 | 【まとめ・諸連絡】  ・次回予告  ・ワークシートを2枚とも回収 |  | ・次回までに、もう一度『山椒魚』を読んでくるよう伝える |  |

参考URLなど

# 知識構成型ジグソー法によるアクティブラーニングの実践

[://edupedia.jp/ahttpsrticle/579ad3922638a7cd7e5be847](https://edupedia.jp/article/579ad3922638a7cd7e5be847)

知識構成型ジグソー法による「舞姫」の授業

<https://edupedia.jp/article/579ae5912638a7cd7e5be854>

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：吉岡

|  |
| --- |
| 授業テーマ：井伏鱒二『山椒魚』 |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  ・読み取り能力が高い。（グループワークを行えば、指導案レベルの読み取りができる）  ・アクティブラーニング型の授業に慣れている。  クラスの雰囲気  ？  第1,2,3回授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  ・「山椒魚」という作品の概要をつかむ。  ・根拠をもって客観的に内容を理解する。  ・話し合い、（意見の表明だけでなく）議論をする。 | 第1,2,3回授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  ・山椒魚の通読  ・根拠を説明できる  ・単発の意見が多く出る。とともに、発展的な議論が起こる。  評価方法（目標に対応するように）  ・音読（通読）  ・ワークシート（根拠の説明）  ・議論の展開（意見/議論） |

|  |
| --- |
| 準備物  ・ワークシート |

|  |
| --- |
| この授業を作るにあたってなんとなく考えたこと  ・時間が中途半端に区切れてる感じもしますが、前回の復習にもなるのでそれもありかなと。 |

授業の流れ

< 計44分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 5分 | 【導入】  ・大学生の自己紹介  ・全8回の授業の概要  ・今回の授業の概要 | ・生徒に、私たちが何者であるかを知ってもらうこと  ・この先の展開をイメージしやすくすること | ・冗長にならないように。 |  |
| ② | 22分 | 【エキスパート活動】  ・「エキスパート活動」と「ジグソー活動」、ちょっとした発表があることを、再度簡単に説明。  ・A, B, C, にわかれる。  ・ワークシートを進める形式で、グループワーク。 |  | ・「この後、各班のメンバーに、今回話し合った内容を説明してもらいます」とアナウンス  （集中してやってもらうための動機付け） | 前回のワークシート2 |
| ③ | 15分 | 【ジグソー活動】  ・ワークシートを進める形式で、グループワーク。 |  | ・グループから班に戻る。  ◎生徒の動きが煩雑なので、スムーズに動けるよう説明・サポート。 | ワークシート |
| ④ | 2分 | 【まとめ・諸連絡】  ・次回予告 |  |  | ワークシート |

参考URLなど

# 知識構成型ジグソー法によるアクティブラーニングの実践

<https://edupedia.jp/article/579ad3922638a7cd7e5be847>

知識構成型ジグソー法による「舞姫」の授業

<https://edupedia.jp/article/579ae5912638a7cd7e5be854>

<http://www.city.kita.tokyo.jp/bosai-bohan/bosai/index.html>

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：吉岡

|  |
| --- |
| 授業テーマ：井伏鱒二『山椒魚』 |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  ・読み取り能力が高い。（グループワークを行えば、指導案レベルの読み取りができる）  ・アクティブラーニング型の授業に慣れている。  クラスの雰囲気  ？  第1,2,3回授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  ・「山椒魚」という作品の概要をつかむ。  ・根拠をもって客観的に内容を理解する。  ・話し合い、（意見の表明だけでなく）議論をする。 | 第1,2,3回授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  ・山椒魚の通読  ・根拠を説明できる  ・単発の意見が多く出る。とともに、発展的な議論が起こる。  評価方法（目標に対応するように）  ・音読（通読）  ・ワークシート（根拠の説明）  ・議論の展開（意見/議論） |

|  |
| --- |
| 準備物  ・ワークシート |

|  |
| --- |
| この授業を作るにあたってなんとなく考えたこと  ・時間が中途半端に区切れてる感じもしますが、前回の復習にもなるのでそれもありかなと。 |

授業の流れ

< 計45分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 5分 | 【導入】  ・大学生の自己紹介  ・全8回の授業の概要  ・今回の授業の概要 | ・生徒に、私たちが何者であるかを知ってもらうこと  ・この先の展開をイメージしやすくすること | ・冗長にならないように。 |  |
| ② | 20分 | 【ジグソー活動（続き）】  ・ワークシートを進める形式で、グループワーク。  ・誰が当たっても発表できるように、準備してもらう。 |  | ・机を班ごとに。 | 前回のワークシート（ジグソー） |
| ③ | 8分 | 【クロストーク】  ・1班1分ちょっとぐらいずつ、「発表用ワークシート」の内容を順に答えていくような感じで説明してもらう。 | ・他の班の意見を聞き、考えを広げ、深める。 | ・机は引き続き班ごと。  ・発表者はこちらが指定。（誰が当たっても説明できるように準備しておいてもらう）  ・こちらから一個一個質問していく形でも良い。 | ワークシート発表用 |
| ④ | 10分 | 【最初のとの比較】  ・第1回で書いてもらったことと比較し、新たに気づいたことを書いてもらう。 |  |  | ・第1回のワークシート |
| ⑤ | 2分 | 【まとめ・諸連絡】  ・次回予告 |  |  |  |

参考URLなど

# 知識構成型ジグソー法によるアクティブラーニングの実践

<https://edupedia.jp/article/579ad3922638a7cd7e5be847>

知識構成型ジグソー法による「舞姫」の授業

<https://edupedia.jp/article/579ae5912638a7cd7e5be854>

<http://www.city.kita.tokyo.jp/bosai-bohan/bosai/index.html>

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：桒野

|  |
| --- |
| 授業テーマ：井伏鱒二『山椒魚』 |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  クラスの雰囲気  本授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  ・前回までの授業は、全体の内容を把握し、問いについて考えるという内容だったので、今回は自ら疑問を持っている部分について考えてもらうことによって、物語の細部にも目を向けてもらう。  ・疑問に思った点を共有し、その部分について掘り下げることで、物語に対する理解を深める。  ・『山椒魚』や井伏鱒二に関する詳細な知識を伝え、本文の理解をより深めてもらうとともに、物語自体に興味をもってもらう。（→自分でも調べていくようになってほしい） | 本授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  ・『山椒魚』内で疑問に思った点、気になった点を挙げられる。  ・それに対して自分の意見を持つ。また、他人の挙げた疑問点、気になった点についても、自分なりの考えを述べることができる。  評価方法（目標に対応するように）  ・ワークシート（疑問点・それに対する答え・新たな気づき）  ・議論の内容 |

|  |
| --- |
| 準備物  ・ワークシート  ・指導案等のコピー（ファシリ用） |

|  |
| --- |
| この授業を作るにあたってなんとなく考えたこと   * その文章を書いた作者についてや、その文章の変遷（改稿等）について学ぶと、文章そのものに対する興味も深くなるかなと感じた。 * 疑問点を挙げ、皆で議論するのと、情報を大学生が伝えるのとで、どちらに重心を置くべきなのか迷った。 * 授業案づくりは難しいですね。   ◎第3回までは本文読み取りだったので、もう少し外側から見てみて欲しい、というのが今回。 |

授業の流れ

< 計45分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 3分 | ・本授業の概要説明  ・ワークシート配布 | ・本授業の内容を大まかに理解してもらう。 | ・その後のワークに結構時間がかかりそうなので、短めに。 |  |
| ② | 10分 | 【個人ワーク】  ・『山椒魚』を読んで、疑問に感じた部分や気になった部分を書き出してもらう。  ・書き出した疑問点については、自分なりの答えを考えてもらう。 | ・自分の気にかかった部分、疑問に思った部分に関して、とりあえず自分なりの意見をもつ。 | ・まだ机は班にしない。  ・いくつか例を提示した方が取り組みやすいかもしれない。 |  |
| ③ | 15分 | 【グループワーク】  ・個人ワークの内容を共有。  ・他人の挙げた疑問点について、自分の考えを述べる。 | ・他人の考えを聞くことで、抜き出した部分について深く考え、物語に対する理解を深める。 | ・机を班にする。  ・個人ワークとグループワークの時間は分けたい（個人ワークの時間で、じっくり考えて欲しい） |  |
| ④ | 10分 | ・ファシリが『山椒魚』や井伏鱒二に関する情報を提供する。  （ただ話すだけだと飽きそうだから、クイズ形式とかの方が面白いかな・・・？） | ・物語や作者に関する知識を伝え、物語自体に対する興味を湧かせる。  （オオサンショウウオ食べられるんだ、とか、最後のとこ書き換えたんだ、とか） | ・画像を見せつつ説明するといい。  ・机は元に戻す  **資料を使う？** |  |
| ⑤ | 5分 | 【振り返り】  ・ワークシートのふりかえりの部分に記入。 |  | ・個人ワーク(時間的に) |  |
| ⑥ | 2分 | 【諸連絡】  ・ファシリのまとめ  ・次回予告 |  |  |  |

【④の部分で伝える内容について】

・山椒魚（オオサンショウウオ）について（両生類、食用可能、など）

・井伏鱒二について（指導案p.127　研究資料より）

・『山椒魚』の最後の蛙の台詞について（後年結末を書き換えている、など）

【ワークで想定できる意見（例）】

・「いよいよ出られないと言うならば、俺にも相当の考えがあるんだ。」とは、だれに対して言ったものか。

→①誰に対して言ったというよりは、自分自身に安心するように言い聞かせている。

②近くにいるかもしれない生物たちに、自分が狼狽しているのを悟られたくないがために見栄をはっている。

・めだかの記述は何を意味しているのか。

→①細かくめだかについて記述することで、山椒魚がいかに時間があって、他にすることがなかったのかを表している。

　②ほぼ動けない山椒魚と、水流に流されながら右往左往するめだかを対比することで、いかに山椒魚が不自由な状況にいるかを表している。

参考URLなど

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：濱部 眞帆

|  |
| --- |
| 授業テーマ：『山椒魚』から問題をつくろう！ |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  前の四時間をかけて物語を読み込むことができている。  クラスの雰囲気  第5,6,7回の授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  誰にでも共通で納得できる読み方を会得する。  ⇒この授業全体の目標は「文章を客観的に読み取ること」だ。今回はそれを体感してもらうための一つの手段として、問題作成に取り組んでもらう。ほとんどの問題には、正しいとされる回答(＋解説)がある。したがって、問題を作る根底には誰もが納得できるような正しい文章の読み取り(=客観的な読み)が不可欠である。三時間分の授業を使ってこれを体感・会得してもらうことを目的とする。 | 本授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  ・ポイントを意識した上で『山椒魚』から取り扱いたい部分を抜き出す。  評価方法（目標に対応するように）  ・ワークシート②にポイントの記述ができる。  ・『山椒魚』の本文の中から取り扱いたい部分を抜き出すことができる。 |

|  |
| --- |
| 準備物  ・ワークシート①②③  ・振り返りシート  (・教科書) |

授業の流れ

< 計46分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 3分 | 導入 | 問題作成の周知、  作成の意図などの説明  →これからの活動について軽く頭に入れる。 | ◎なぜ問題作成をするのか？を説明  →ほとんどの問題には、正しいとされる回答(＋解説)がある。したがって、問題を作る根底には誰もが納得できるような正しい文章の読み取り(=客観的な読み)が不可欠である。今回はそれを体感してもらうための一つの手段として、問題作成に取り組んでもらう。  (↑目的に記載。) |  |
| ② | 10分 | ワーク(1)  『一寸法師』を読み、設問に答える。(個人) | 問題の質に目を向ける。 | ※問一は良い問題の例、問二は悪い問題の例になっている。 | ワークシート① |
| ③ | 8分 | グループで採点  班の中で解答用紙を回し、自分以外の人のものを資料②を使って採点する。 | 問二に関しては回答が人それぞれである(?)ことを班内で共有する。 |  | ワークシート② |
| ④ | 5分  ↓  2分 | ワーク(2)  ・なぜ問二は答えづらいのか  ・問一との違いは何か  を考え、ワークシート②に記入する。(班)  ↓  クラスの誰かが発表 | 問題の質に目を向ける。 |  |  |
| ⑤ | 3分 | ファシリより、軽い補足 | 問題作成においてのポイントを知る。 | ◎伝えたいこと  「客観的な読みができている問題」と言えるのは  →・文中に、答えの根拠となる一文が明記されている！  ・主観が入っていない！ |  |
| ⑥ | 5分  ↓  10分 | 文中で自分の気になった場面をピックアップしてみる(WSの(1))  ↓  班ごとで『山椒魚』に当てはめて、問題作成に使う部分を決める((1)を参照しながらWSの(2)) | ・自分が印象に残っている登場人物の心理/言動や段落  ・それを選んだ理由  を決める | どこを使いたいか大学生と確認できると◎。 | ワークシート③ |

参考URLなど

<http://kou.benesse.co.jp/nigate/japanese/a13j0603.html>

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：濱部眞帆

|  |
| --- |
| 授業テーマ：『山椒魚』で問題を作成しよう！ |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  本文を読み込むことはできている。  問題作成の上でのポイントを知っている。  本文から気になる一文を抜き出している。  クラスの雰囲気  第5,6,7回の授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  誰にでも共通で納得できる読み方を会得する。  ⇒この授業全体の目標は「文章を客観的に読み取ること」だ。今回はそれを体感してもらうための一つの手段として、問題作成に取り組んでもらう。ほとんどの問題には、正しいとされる回答(＋解説)がある。したがって、問題を作る根底には誰もが納得できるような正しい文章の読み取り(=客観的な読み)が不可欠である。三時間分の授業を使ってこれを体感・会得してもらうことを目的とする。 | 本授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  自分で問題と解答の作成ができる。  評価方法（目標に対応するように）  ・ワークシート②③を埋めることができる。 |

|  |
| --- |
| 準備物  ・前回のワークシート③  ・ワークシート①×人数分(14)＋班(4)＝18枚、②③各4枚  (・教科書) |

授業の流れ

< 計分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 3分 | 前回の復習 | 問題作成をすることの意味、ポイントを復習 | ・根拠となる一文があること  ・主観(「こうだと思う。」)は抜き  という二点を確認する。 |  |
| ② | 8分 | ワーク(1)  抜き出した一文を細かく説明してみる。 | 抜き出した部分での出来事の因果関係を明確化することで、問題作成への移行をスムーズにする。 | まずはワークシートの  「こうなった」の欄に、前回  自分が抜き出した一文を入れるところから始める。 | ワークシート① |
| ③ | 10分 | それぞれのワークシートを班の中で見せ合いながら、意見を一つにまとめ、班用のワークシート①に清書する。 | 他の人からも賛同をもらえるかで、自分の読みが客観的であるかを確認する。  その上で、最終的に班の中で合意形成ができる。 |  | ワークシート①  (班に1枚) |
| ④ | 25分 | 問題・解説を作る  ※〇〇文字程度で答えられる問題にしてください  と指定する | ワークシート①を使いながら、抜き出した一文に関連した問題を一問作成。  問題文の作り方は多岐に渡る。  ex)根拠を答える・一文/段落を抜き出す・心情を答える・言葉の比喩する意味を答える・変化する様子を答える etc... | ・解答の仕方は記述形式に統一する。  ・「問題・解答を作り終わらないと次回できないので、終わらせてください」とアナウンスする。  ☆もし問題が作りづらい班があれば、解答文から考えてみるやりかたも提案してみる。 | ワークシート②③  (班に1枚) |

参考URLなど

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：濱部眞帆

|  |
| --- |
| 授業テーマ：『山椒魚』で問題を作成しよう！ |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  ・本文を読み込むことができている  ・問題作成のポイントを押さえた上で班で一つずつ問題が出来上がっている  クラスの雰囲気  第5,6,7回の授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  誰にでも共通で納得できる読み方を会得する。  ⇒この授業全体の目標は「文章を客観的に読み取ること」だ。今回はそれを体感してもらうための一つの手段として、問題作成に取り組んでもらう。ほとんどの問題には、正しいとされる回答(＋解説)がある。したがって、問題を作る根底には誰もが納得できるような正しい文章の読み取り(=客観的な読み)が不可欠である。三時間分の授業を使ってこれを体感・会得してもらうことを目的とする。 | 本授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  他の人と問題を解き合うことで、「客観的な読み」を体感する。  評価方法（目標に対応するように）  ・ワークシートの○×欄に〇がたくさん並ぶ。  ・振り返りに「客観的な読み」に言及した記述が見られる。 |

|  |
| --- |
| 準備物  ・前回のワークシート②③  ・ワークシート |

授業の流れ

< 計45分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 5分 | 準備 | 前回を通して見直したいところ、手直ししておきたいところの修正。 |  | 前回の  ワークシート②③ |
| ② | 3分 | 今日のワークの説明 |  |  | 今回の  ワークシート |
| ③ | 25~30分 | 問題を解く時間  各自ワークシートに記入していく。  (10分で次の班へ移動が目安)  (班のメンバー全員で移動) |  | イメージとしては、  自分たちで作成した問題(前回のWS②)を表、解答(前回のWS③)を裏にして班の中心に置いておき、人が移動して解きに行く形式。 |  |
| ④ | 3分 | WSを切り取り線で切り、各班に渡しに行く |  |  |  |
| ⑤ | 5分 | 振り返りを書く |  | WS下、◎の欄に記入。 |  |

参考URLなど

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと

文責：湯木

|  |
| --- |
| 授業テーマ：山椒魚 |

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒・クラスの現状  生徒の現状  クラスの雰囲気  本授業の目的（対象者にどうなってほしいか？）  ・作中に出てくる「山椒魚」「苔」「めだか」「小えび」が何を比喩したものなのか分かる  ・現代文は客観的に読めるのだということを確かめる  ・グループワークを通してよりよい答えを探せる。 | 本授業の目標（何をもって目的達成とみなすか？）  ・ワークシートに充実した解答が残せる  ・解答の根拠が説明できる  ・ワークシートの解答が個人とグループを比較した場合、後者の方が勝ったものになっている  評価方法（目標に対応するように）  ・グループワークへの積極的参加  ・ワークシート（理由が説明できているか） |

|  |
| --- |
| 準備物  ・ワークシート |

|  |
| --- |
| この授業を作るにあたってなんとなく考えたこと   * 現代文は客観的に読めると実感してほしい * 作中の登場生物が体現している人間らしさを自分と重ね合わせて考えてみて欲しい * 全ての問題、解答には根拠があると実感してほしい |

授業の流れ

< 計45分 >

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 時間 | 活動内容 | 各項目の目的 | 備考　　　　※注意事項 | 準備物 |
| ① | 3分 | 【導入】  ・今日の授業の内容説明 | これから学習することを明確にする | ・現代文は客観的に読めることを学んだ。その確認をします、とアナウンス |  |
| ② | 10分 | 「山椒魚」は「近代知識人」の比喩であることを提示  【近代知識人はこんな人々】  近代に生きていた知識人。  現代でいう有識者。  近代は明治維新の後。  科学技術を西洋に習い、西洋に追いつこうとしていた時代。彼らは自然に対して批判的でもあったわけです。    →ワークシートの問題を解かせる【個人】 |  | 【伝えたいこと１】  ・作者井伏鱒二も比喩を意識して書いている  これは「寓話」。教訓や風刺を、動物や他の事柄に託して語る物語。「イソップ物語」など。教訓的なたとえ話。  →考えすぎだと思うかもしれない。でもこれは研究者の中では一致した見方だ。寓話だととれる根拠が沢山あるからだ。まずはそれを探してみよう。  山椒魚が擬人化されていることを示す文章はないか。  【伝えたいこと２】  ・問いと答えには必ず根拠がある。  【生徒に向けて】  ・生徒に、発表してもらうことを事前に告知  ・根拠も考えるよう指示  【生徒の反応予想】  ・あまり難問ではないため、どの問題も分からない、という生徒はいないはず。 |  |
| ③ | 3分 | 【グループワーク】  グループで話し合わせる | 文中の根拠を見つけることで、全ての問いと解答には根拠があることと、根拠に依れば客観的に読める、ということを実感させる | 【生徒の反応予想】  ・グループワーク後でもあるし、誘導できない程見当違いな答えは出てこないことが予想される。 |  |
| ④ | 5分 | 発表させる  （出席番号一番早い人等こちらで指定）  →正解へ誘導しつつ、  　解答の発表 |  | →他グループの意見についての考えを発表させてもよい（～だからこの意見よりこの意見の方が望ましいと思う等） |  |
| ⑤ | 10分 | 【個人ワーク】  「めだか達」「小えび」は何を例えているのか考えさせる（8分）  こちらで答えの発表  簡単な解説も加える（2分）  山椒魚と小えびの対比関係  現代文を読み取る時注意すべきこと：対比、比較、関連付け、分類 |  | ・根拠を書かせる  【生徒の反応予想】  ・岩屋から出られない山椒魚と対比して「自由な人々」という解答が出るのではないか  →集団の中から抜け出せない。自由なのか？  ・120ページ15行目に「全くえび～のである。」とある。ここから「何もせず笑っている人の比喩」などという解答が出るのではないか  →これは「小えびが身体を曲げ伸ばしして泳ぎ回る姿を、人間がお腹を抱えて笑う姿に重ね合わせたもの」  →主人公である山椒魚に与えた影響に視点を置くと |  |
| ⑥ | 6分 | 【個人ワークシート】  自分をこのお話の登場人物に例えるなら誰だと思うか。何故か。 | 小説を現実に落とし込んで考えることで、小説への理解が深まる、ということを実感させる。 | ・理由をしっかり書くよう指示  ・現実世界で小説に対応するものを見つけられた→『山椒魚』がより分かり易くなったと思う、とアナウンス。 |  |
| ⑦ | 8分 | ルーブリック記入  【個人ワークシート】  今日の授業のまとめと『山椒魚』という作品についてのまとめ  →今日の授業の感想と全体を通してのを書かせる |  | 「現代文は客観的に読める」を強調する  今回の読み（根拠を探す）をこれからに応用して下さい。ブレない読みができるようになります。（全ての小説、評論、古文、漢文にまで通じている） |  |

参考URLなど

・<http://junten.web.fc2.com/gendaibun/shousetu/gendaibun_sanshou.html>

＜授業案を作る上で注意すること＞　文責：小松

・具体的に頭で授業をイメージする

・常に「自分が生徒だったら」という視点を持つ

・配布資料は配布数・配るタイミングと、回収するかどうかに気をつける

・目的に沿ってできているか確認する

・時間配分は余裕を持って

・主語述語ははっきりと